栗生小学校4年生　総合学習「みんながすみよいまち」　お話しメモ

9月1日　武　修司

1.「地区まつり＆川あそび」のビデオを見る････6分

2. 私は子どもの笑顔を見るのが大好きです････3分

|  |
| --- |
| ・私は「子ども時代のふるさとの記憶」をたくさん持っています。  　子ども会で海水浴に行ったこと、クリスマスにショートケーキをもらってうれしかったこと、ガキ大将といっしょに山や川で遊んだことなど。  山や川は私たちのあそび場で「冒険」でいっぱいでした。  山や川で「冒険をした」というと、今のおかあさんや学校の先生は「危ないから行ってはいけません」というかもしれません。でも何が危険かを知ってそれを乗り越えないと成長はできません。子どもが危険な遊びを「おもしろい」と思うのは、危険を乗り越えることで「ぼくにもできる！」と、成長を実感するからです。でも、子どもが危険を知ってそれを乗り越えるには、**「アレ」が必要なんです。アレが！**  **（KYT・指導者・見守り）** |
| ・子ども時代の「ふるさとの記憶」は、私の大事な宝物です。  ・大人になって、子どもたちの遊ぶ笑顔を見ると、子ども時代がよみがえります。 |
| ・いま見てもらったビデオの「川あそび」は、私の子ども時代の体験を再現したものなのです。  ・ここにいるみんなにも、「子ども時代」の記憶をたくさん作ってほしいと思います。 |
| ・**君たちはいま、「少年時代・少女時代」の記憶製作中なのですよ！**  ・君たちの心の中に、まるで映画の撮影ように、子ども時代の記憶が残ることを願っています。**（夏休みの思い出を心の写真に撮りましょう。）**  ・なぜ子供時代の記憶が重要なのか？それを説明するのは難しいです。  　なので、偉くて有名な人の言葉を紹介しましょう。  【　**隈研吾**著、イ・ジョンファン訳『隈研吾、建築を語る』（木の思い社）】  「**自分が生まれた場所、自分を育ててくれた場所のことを考えると、不思議と気分が明るくなった」**  **「人は自分の『場所』があることで、どんなことがあっても生きていける…**『場所』は、単に静かに存在しているようであっても、実際は非常に繊細なのだから」  【ノンちゃん雲に乗る　の作者　石井　桃子】  **子どもたちよ／子ども時代にしっかりとたのしんでください**  **おとなになってから／老人になってから**  **あなたを支えてくれるのは／子ども時代の「あなた」です** |

3. 私は「地域のコーディネーター」

|  |
| --- |
| ・私は子ども会の事務局長をボランティアでしています。  ・子ども会の行事を計画するのも、私の仕事です。（子どもたちの遊ぶ笑顔を見ると、子ども時代がよみがえります） |
| ・子ども会の行事をするには、たくさんの大人や青年の協力が必要です。  ・たくさんの人が、「子どもたちに笑顔で楽しんでもらおう」と考えて協力し、大人同士も仲良くなります。  ・つまり、子どもが楽しんで笑顔になることが、地域の人を仲良くさせているでしょう！  ・だって、地域の大人の人たちは、自分のこども時代の記憶を持っているのだもの！子どもたちといるとき、大人は子ども時代にタイムスリップしているかもね。 |

4. 笑顔は拡散します（怒った顔も拡散します）

|  |
| --- |
| ・人間の気持ちは伝染しやすいので、あなたが笑顔になれば私も笑顔になれます。  ・あなたがつまらなそうな顔をすると、私は心配になったりします。  ・どちらかと言えば、笑顔の方がいいですね。 |
| ・あなた達が笑顔になってくれるなら、私は、もっともっと笑顔になってほしいと思って、また川あそびやお祭りを計画するでしょう。 |
| ・さあ、笑顔になって、地域の人に笑顔を伝染させてください。  ・今日の授業のテーマ「みんなが住みよいまち」って、笑顔がつぎつぎに伝わっていく町なのだろうと、私は思っています。  ・君たちには何ができますか？ |